2014年4月27日ケアを考える会岡山　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大賀メモ

清水哲郎　「最期まで自分らしく生きるために」を読んで

【希望】

P.183　「希望を最後まで保つ」とは、実は「現実への肯定的な姿勢を最後まで保つ」ということに他ならない。

∴肯定的姿勢は、みんなと一緒に、少なくとも誰かと一緒に歩むことにより、成立する。

∴人々の輪の中に居場所があり、居心地がいいことによって安定している。

∴人間にとってコミュニケーションの場が不可欠である。

【尊厳】

P.186　「尊厳を持って」とは「自らの現在の生を価値あるものとして肯定する姿勢で」という意味。

「尊厳を回復するために私たちにできることはないか？」⇒存在を肯定すること

⇒愛すること

【スピリティチュアルな領域】

P.159　この世界はある超越者によって創られ、その超越者が支配するところだ。

P.160　「超越者に帰依し、その意思を見極めつつ、それに添うように生きよう」ということ

P.162　「≪信じる≫は、意志的な理解であり、理解的な意思。

　意志的な理解：クリスチャンとして生きることを決意し、

　　　　　　　　　　　聖書から得られたみ言葉を味わうことから得られる理解

　理解的な意思：神からの召しが与えられたと理解する出来事（事件）

　　　　　　　　　　　による行動の現れとしての意思

　例：ナイチンゲールの召し

　　　マザーテレサの伝記で書き記されている証し「パンが与えられたこと」

P.人は皆、何かしらこのような知性的かつ意志的な≪信≫を心の奥底に持っているのではないでしょうか？

≪信じる≫ということが、私のいのちの物語りの根底にあるスピリティチュアルなものの核心です。